

# 最上川学運営エリア構想イメージ（連携NPO・地域活動団体位置図）



各地域活動団体や中間支援NPOと連携協働しながら最上川学の運営と活動を進めていきます。



# 森林

里山保全活動  
知恵・技術の伝承、  
森林環境教育を展開











里

鶴岡市松ヶ岡はじめとして  
庄内最上地方12か所で  
地元学活動を展開







# 川～最上峡を中心とする川漁文化伝承と観察会・保全活動



地元の川漁師と生き物調べ



最上峡をカヌーで探検



水質調査



川面から最上峡の川と森林観察





2009/12/12



# 海～海辺の集落の地元学と自然文化交流～

山村の高校生が海辺の森林ボランティア活動



海辺の地元学を  
実施！



山村の住民と海辺の  
住民が食文化交流会  
を実施







戸沢村角川地区で  
採れた山菜を酒田市  
飛島法木地区の  
住民に紹介するな  
どした交流会  
=酒田市飛島

## 戸沢・角川地区 × 酒田・飛島法木地区

### 住民同士が初交流



角川地区の自然環境学習  
ループ「角川里の自然環境学  
校」(斎藤久一代表)では、  
住民が「里の先生」となり、  
地元の文化や伝統などを次世  
代に伝えている。二〇〇六年  
からは同学校の研究部が、活  
動に広がりと深みを持たせよ  
うと、他地域に出掛けて調査  
活動を行つており、去年、メ  
ンバーが飛島に行って県漁業  
協同組合飛島支所女性部(斎  
藤栄子部長)と交流。その後、  
今回の話がまとまつた。

戸沢村角川地区の住民が九、十の両日、酒田市飛島を訪れ、法木地区の住民と交流した。森の角川と、海の飛島の住民同士が、互いの埋もれた「里」を探し出し、地域活性化の足掛かりにしようとの試み。初の交流となつた今回は、互いに郷土料理を出し合い、味わうとともに、意見を交換した。

# 森と海の宝 地域の力に

郷土料理出し合い、意見交換

交流活動には、同学校と、  
同学校研究部が昨年、設立し  
た特定非営利活動法人(NP  
O法人)「里の自然文化共育  
研究所」(大山勇理事長)、  
同女性部の関係者約二十人が  
参加。法木会館で開かれた郷  
土料理交流会では、角川地区  
の住民がフキの煮物やミズの  
たたきなどの山菜料理を出し  
たのに対し、飛島側はスルメ  
イカの煮物やサザエのつぼ焼  
きなどを披露した。

また、飛島では間もなく、  
トビウオの焼き干し作りが  
本格化するが、調理過程で欠  
かせない炭が不足している。  
一方、角川地区はナラを用  
いた「日山白炭」の産地とし  
て有名。そこで、トビウオの  
焼き干し作りに日山白炭を  
利用してまろつきかけにし  
よう、四十五キロ分を提供し  
た。

里の自然文化共育研究所の  
出川真也事務理事は「山と海  
が一緒になつたときに發揮さ  
れる力に可能性を感じた。事  
業化に向けて、角川の山菜と飛  
島の魚を用いたレシピを開発  
してはどうかといったアイデ  
アが出ていた」と話していた。

2008年  
6月13日  
山形新聞  
記事より

# 5. 活動の停滞段階と課題

## - 阻害要因としての行政と人材育成の課題 -

### □ (1) 活動コンセプトの保持と担い手育成の課題

- ・ 地域の住民リーダー力の重要性-多様な事業展開の中での基本思想維持の困難さ-
- ・ 地域内の若者のみではなく同時にかかる外部の若者の受け入れや養成が大切

### □ (2) 阻害要因としての行政施策

- ・ 地域に寄り添わない行政施策の導入が地域団体解体のきっかけへ
- ・ 小規模自治体における行政職員によるポジションへのこだわりがもたらす弊害

### □ (3) 実際の事例から：角川里の自然環境学校の解散と行政主導

- ・ 活動が完成する直前段階における配慮と注意の必要性
- ・ 収益性のある取り組みへの一般住民の関心と活動の特化-利益率を優先することによる外部との相互扶助関係から離脱-
- ・ 行政職員の思惑と圧力、地域出自の議員のチェック機能-縦割り構造の弊害と通底-

# 角川里の自然環境学校解散からの教訓

～地域の政治学をどういなすか・・・～

## □ 収益的プログラムへの特化のはじまり

- ・多様な住民の参加や持続可能な収益性の確保が見込まれる中で、活動動機が不純なものとして発展。住民間の合意形成過程に不協和音が発生

## □ 競合する行政施策の出現

- ・行政が主導的に参画するフレームの競合施策が出現  
(「窓口業務を産業振興課に移管してほしい」)

## □ 行政職員・議員のポジション確保の思惑

(地域出自の職員・議員の役割を保持しようとするメカニズム)

※地域・団体の漸進的発展過程においては、外部から運営システムの脆弱さに付け入る隙が発生する。活動を拡充させながらいかにわきを固めるかということは今もって課題。

## 6. 最新の状況 - 次世代に繋ぐ地域コミュニティの新たな再創造に向けてNPOの役割 -

- (1)活動思想と基盤がしっかりしたコンパクトで機動性あるネットワーク型NPOの育成（行政の傀儡ではない組織形成）
  - ・地域内の協働連携の仕組み作り、地域外との協働連携の仕組み作り
  - ・各地域の活動目的に寄り添った多様なネットワーク運用のコーディネート機能
- (2)これからのコミュニティのあり方-NPOとコミュニティの相乗的活性化-
  - ・伝統的住民だけではない、コミュニティにかかわる外部者も含みこんだ当事者重視のコミュニティという発想
  - ・モノや豊かな暮らしを生み出すコミュニティとコーディネート機能を持つNPO育成

取り組みの新たな再生を目指して…  
ワカモノ達による住民と共に最上川流域の暮らしを  
学ぶ活動をサポートし様々なエリアで展開



多主体連携：地元の高齢者や子ども達など様々な主体とも協力しあいながら学びを展開しています。



- ・地域の人たちから聞き書きを行い、その特徴を知ることが出来た。地域の人に溶け込む方法が分かった。
- ・小学生や地域の人たちと一緒に川で水辺調査を行った様々な生き物を見つけられたと共に、子どもたちとも触れ合う中で、地域に入っていく一つの方法なのではないかと感じた。



最上川流域12団体によるネットワーキング～20団体・1万人の流域環境活動の創出を目指す  
山形県最上川流域。最上地方(内陸北部)と庄内地方(西部海岸)の農山漁村における活動団体や地域集落・人々と一緒に  
になって多様な保全活動を展開していきます。  
森里川海の多様な自然と文化、暮らしを学び体験しながら  
ふるさとの原風景の再生と元気づくりに参画する実践プログ  
ラムです。

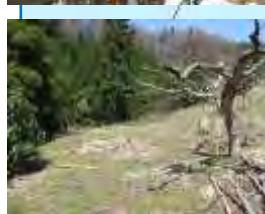
飛鳥漁協女性部法木支部



掲載範囲



中野俣を元気にする会



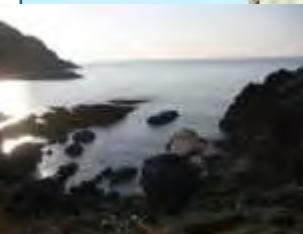
田茂沢道草ぶんこう  
越後三浦市漁の家

NPO法人  
里の自然文化共育研究所

立谷沢川流域振興  
プロジェクト協議  
会

致道博物館

三瀬の里地域づくり研究  
会  
(つるおかユースホステ  
ル)



木の保  
自治会

関川しな織共同組  
合



森活動：茶  
採り体験

里活動：緑

川活動：青

海活動：黄

歴史文化：紫

中間支

最上川舟下り  
いかだ下り



羽黒古道を守る会

里の研究所角川支局

若鮎交流塾



宮沢翁塾

松ヶ岡ネット

山形県

関川しな織共同組  
合

木の保  
自治会

木の保  
自治会</p

# NPO里の自然文化共育研究所 2010年 活動位置図

～多彩な集落特性を生かしたネットワーク活動の構築を目指して～



農山漁村の新たな再創造を夢みて・・・

